



報道発表

2010年2月16日

財団法人デジタルコンテンツ協会

### 3D制作支援のための映像を体系化

財団法人デジタルコンテンツ協会（会長：中鉢良治 ソニー株式会社 代表執行役 副会長）は、株式会社オムニバス・ジャパン（社長：山下 欽也）、ソニーピーシーエル株式会社（社長：毛塚 善文）、パナソニック映像株式会社（社長：中西 正治）と共同事業体を作り、3D制作支援のための映像を体系化しました。本事業は、経済産業省の「平成21年度ITとサービスの融合による新市場創出促進事業（コンテンツ技術実証事業）」の一環として実施しました。

3D映画“アバター”は空前のヒットとなり、北米で3D映画産業が立ちあがりつつあります。一方、日本企業は家庭普及で巻き返しを狙い、3D対応のテレビ、BD、ゲームなどの発売を発表しました。

3Dテレビを中心とした家庭での普及は、この技術に対応した質の高い番組やコンテンツが供給されるかどうかにかかっており、それに呼応するように、スカパ-JSAT やケーブルテレビ最大手のジュピターテレコム（JCOM）が3D放送を開始します。

この様に、3Dテレビの発売や番組の充実を図る機運ができつつありますが、国内においては、質の高い魅力的な3Dコンテンツを制作するクリエイターが、質・量共に不足しているのが現状です。

このような背景から、3D特有の映像制作方法の開発や人材の育成が急務です。今回体系化した「3D制作支援のための映像集」は、これから3D制作に携わろうとする経験の乏しいクリエイターにとって参考になることを目指しました。

具体的には、

- ・様々な条件で3D実写映像を制作しました。この中には失敗例や立体視が不自然なものを含みます。（図 制作した映像の分類）
- ・実写映像とCG映像を合成し、字幕の付け方などの事例を制作しました。
- ・これらの映像に対して一般被験者による主観評価及び眼科的な生体反応評価を行い、本

「3D制作支援のための映像集」の客観性を担保しました。

今後、本成果を普及啓蒙することで、3Dクリエイターの質・量の拡大を図り、もって3Dコンテンツ産業発展にハード・コンテンツの両面より寄与してまいります。

具体的な普及啓蒙策は以下の通りです。

- ・クリエイターのためのセミナーを開催（2月及び3月の予定）
- ・制作した映像をパッケージ化し解説本とセットにして配布（4月以降）
- ・上映環境を提供（4月以降）
- ・関連業界団体等を対象に説明会を開催

### 問い合わせ先

〒102-0082 東京都千代田区一番町 23-3 日本生命一番町ビル LB

財団法人デジタルコンテンツ協会 吉田・中村

電話 03-3512-3903 ファックス 03-3512-3908

電子メール 3d-info@dcaj.or.jp

ホームページ <http://www.dcaj.or.jp/>

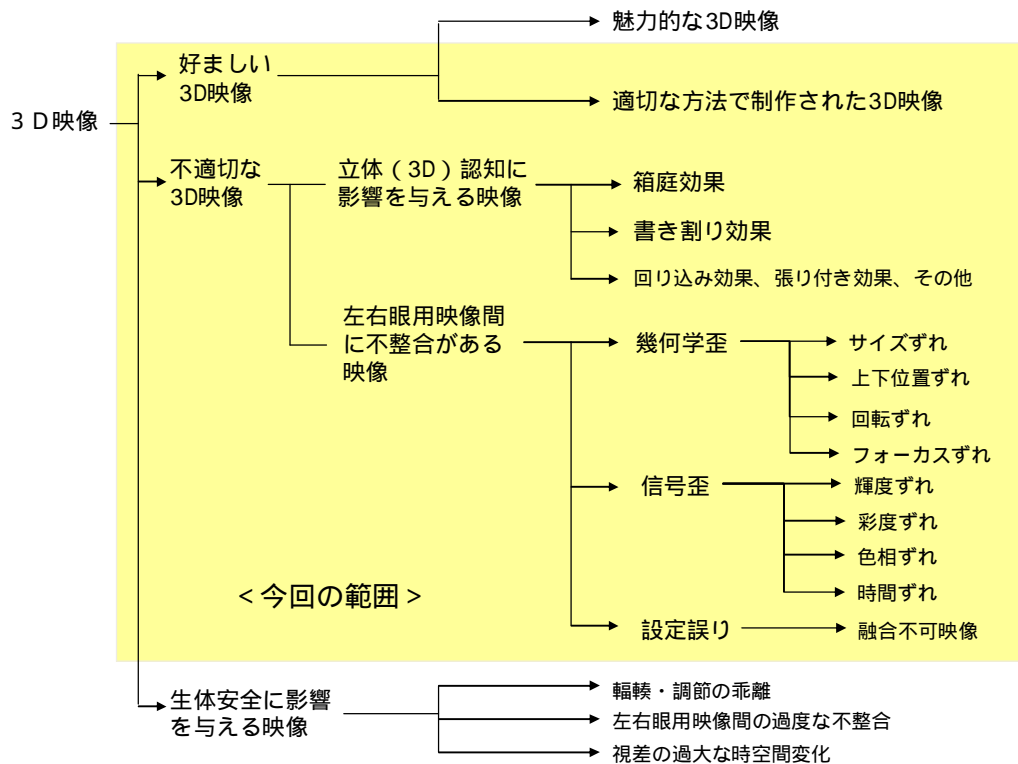


図 制作した映像の分類